



湘南桜友会報

第12号 平成22年12月1日発行

発行責任者 竹内 猛
 編集責任者 佐藤 清崇
 事務局 茅ヶ崎市中海岸 4-4-11
 浦田憲一方

2010年雑感

湘南桜友会会長 竹内 猛 (昭和33年 政経)

○京滋桜友会で

本会の会員である有村國宏さんが会長をされている京滋桜友会秋期総会に参加した。設立1年目だが種々催事も企画実施され、活発な活動の様子が伺われ、まさにご同慶の至りである。総会後の懇親会では、たまたま春の総会時に講師をつとめられた臨済宗相国寺派有馬管長、秋の講師の青蓮院門跡東伏見門主、葛城桜友会副会長それに有村会長他の桜友会員諸兄が同卓で、京ならではの話を拝聴し、成程京都は「社」のまちでなく「寺」のまちだと強く感じた。お話の中で、金閣・銀閣両寺の住職でもある有馬管長、皇室とも深い関係があり史跡青蓮院旧御所や国宝青不動明王画像で知られる東伏見門主のお二方とも、見学希望のある桜友会員には特別な図らいをしてもよいと申されておられたので、我々湘南桜友会でも、有難く恩恵にあずかれるよう考えてみたいと思った。



象山と妻・順子 (勝海舟の妹) 昨年10月撮影

○佐久間象山甦る

青蓮院宸殿での秋の講演会は、内容は素晴らしかったが、京都御所ご下賜の建物だけに外との仕切りは御簾だけで、非常に寒かった。普段は大法要や結婚式にも使われるという。

総会会場への途次、「坂本龍馬お龍結婚式場跡」という碑があった。きけば青蓮院の元塔頭金蔵寺の跡で、今は民家になっている。青蓮院では昔から結婚式も行っていたのだ。さて龍馬の師でもある象山先生だが、高瀬川のほとりで暗殺されお墓は真田家の菩提寺でもある大法院にある。先生の名前がこの頃新聞紙上に度々登場するようになった。それは、外交・国防・内政と四面楚歌の風情強まる現内閣を鼓

舞する為か、先生や弟子の吉田松陰の言葉を引用し解説しているものが多い。先生方の考え方の両評価を、同郷の後輩としてまた真田十万石祭で先生に扮した者として喜ばしく思っている。

○そして今、清水幾太郎先生

父の机上から拝借して「世界」や「心」という雑誌などを読んでいた高校生だったから、一浪後は、当然学習院大学に入学となった。ホームルームは清水ルーム、社会学研究会と清水ゼミへはこれまた当然の流れだった。

社会に出てからは考え方の面で、ズレがあったこともあるが、そう長い期間ではなかった。この所先生のことで嬉しい事が続いている。11月10日付の産経新聞では「日本よ国家たれ」の危機感>という標題で当時の先生の考え方を援用し、現在の柳腰外交では、日本は国家ではないと述べている事と同じだ。>と論じている。

また「月刊文春12月号」では先生と岸信介氏の未公表の対談が採り上げられており、先生による「戦後の内閣で、岸内閣までが政治的内閣でその後は経済的な内閣になった。」という指摘に対し岸元首相は「1951年の講和条約、60年の安保改定に続き三番目に自主憲法の制定によってはじめてアメリカの占領体制から脱却できるという私の持論は、池田(勇人)君も弟(佐藤栄作)も逃げて通って経済中心になっている。中曽根に至って改憲のタブーを打破すると言った。また経済の時代から政治的な時代にならないとまずいんじゃないだろうか」と本音で応えている。(この対談は一読の価値があり、おすすめ。)

今の政治情勢ならば、我が愛する両先生は、まだまだ紙上を賑わすこととなろう。そろそろ明るく新年を迎えたいものだが……。

安倍院長のこと



小菅 孝二 (昭和29年 政経)
 平成年代の卒業生が年々
 増える中、安倍院長の教え
 を直接受けた人々は相対的
 に減少の一途を辿っていま
 すが、戦後私学として再生
 した学習院を20年間に亘
 り統率し指導してこられた

先生の遺志を後世に伝えていくことは大切なことと思われま

戦後の混乱期昭和21年院長就任当初は、カントを中心とする西洋近世哲学の学者として一般教養課程の哲学の教壇に立たれていた姿が目に見えます。しかし先生を悩ましたのは、最初からわかっていたことですが、私学に移行した学習院の復興のため、いかにして財政基盤を固めるかでありました。昭和22年度1千万円の募金に次いで翌年3千万円の募金が続けにおこなわれ、先生が最も苦手とする募金活動が毎日のように続いたのでした。「朝目覚めると憂うつになる」と自伝の中で率直に告白されています。その後1億5千万円の院債の発行さらに追加3千万円の募金が行われ、昭和35年度には5億円の寄附目標を完遂されました。先生はニーチェの言葉を借りてこれら多難な募金に身を投じた「我が運命を愛す」と諦観されていました。

安倍先生の教育上の大きな貢献は、初等科から大学に至るまで優秀な教員1人1人を自己の目で確かめながら採用されたことでした。とくに大学へは学会における多彩な人脈を生かし、各分野の最高権威を招聘し、充実した教授陣を構築し、その伝統は現在でも生き続けています。

昭和29年、先生の発意により卒業生との交流懇親を目的として、「三木会」という第3木曜日月例の会を始められ、夕刻から自宅を解放されました。これは先生が一高校長の時代に「一木会」(先生と旧制一高卒業生の会)を開かれたのと同じ発想によるものでした。この会は先生が亡くなる昭和41年まで127回開催され、まさに先生を中心に卒業生有志が膝を交えた談論風発の場となったのでした。

先生は古武士のような風格と気骨をもつ明治の人として大きな存在感を示されていましたが、皮肉とユーモアに富む一面もありました。自分の名前「安倍能成」を「あんばいよくなる」ともじり、病人を見舞えば必ず快くなるなどと無邪気な冗談を云われたりしました。

先生が鬼籍に入られて久しくなりましたが、創立85周年記念としての先生の揮毫「自重互敬」と刻まれた机上の鉄製のペン皿が今もなお海より深い学恩を偲ぶよすがとなっています。



四季折々、うぐいす、ほととぎすなど野鳥のさえずりが絶えない北鎌倉松が岡の名刹東慶寺の苔むす墓苑の一角に、西田幾多郎、岩波茂雄と並んで先生はいつまでも私達を静かにやさしくしかも厳しく見守ってくださることでしょう。

【参考図書】

- | | |
|------------|-------------|
| 1. 安倍亮追悼録 | (昭24) 安倍能成著 |
| 2. 岩波茂雄伝 | (昭32) 同上 |
| 3. 我が生ひ立ち | (昭41) 同上 |
| 4. 涓涓集 | (昭43) 同上 |
| 5. 三木会の思い出 | (平3) 学習院三木会 |
| 6. 安倍能成先生 | (平6) 山下一郎著 |

<役員紹介>

副会長 高澤 寛 (昭和35年 政経)



私が桜友会活動に加わる
 ことになったのは、平成6
 年初頭のある日の電話でし
 たら。電話の主は第45代南
 部藩主、南部利昭氏、2年
 先輩で高等科のラグビー部
 でご一緒し相当しごかれた
 ものでした。「おい高澤、お前今暇なんだろう。桜友会理事にならないか、俺が推薦するから。何大した

ことないよ、理事会に時々顔だすだけでいいんだから」とお誘いを受けたのです。後で考えれば誠に時宜を得たお誘いであったのですが、その時は桜友会がどんな活動をしているのか、誰が会長で何をどうしているのか、全く知識がなく、つい「はい分かりました」と返事をしてしまったのが始まりでした。

爾来11年間に亘り、黒田会長代行、5代賀陽会長、6代亀井会長と常務理事として仕えて参ったのです。何しろ私の心の中では、南部さんの顔を潰してはいけないとの思いが強く、それは一生懸命努力するしかないという事でした。

最初は催事担当常務理事を拝命し、4月のオール学習院の集い、旅行会、ゴルフ大会（常陸宮杯）、12月のチャリティチェリーパーティ、更に月例会、伝統文化に触れる会、春のゴルフ大会（会長杯）等が加わり、また平成11年から学校法人学習院評議員に選出され、法人の会議に出席するようになりました。組織委員会を担当した時は、東京中央桜友会、鎌倉桜友会設立に関与しましたし、引き続き現在の湘南桜友会を間宮君や竹内会長、他の方々と立ち上げたのも良い思い出となっております。

残念に思うのは、企画委員会を担当した際、「桜友サロン」を創り上げようと理事の皆さんに呼びかけ、もう一歩というところで計画が頓挫した事です。我が校にもOBが集う場所があればとの思いから、賀陽会長の厚い信任を得ての企画でしたが、直前で中止せざるを得なくなったのには今も忸怩たる思いで一杯です。南部さんは昨年1月急逝されましたが、桜友会の会合などでお目にかかるとう「おい、ずいぶん頑張っているらしいね」と話されていた笑顔が目には焼き付いております。

今後は参与として桜友会活動に、また副会長として湘南桜友会活性化に微力を尽くして参る所存です。

幹事 高澤 みゆき (平成11年 文)

鵠沼に生まれ育って30余年、アラサー独身、高澤みゆきです。湘南桜友会の皆様にはいつも温かく優しく迎えていただき、感謝しております。

学習院との出会いは中等科、12歳から私の遠距離通学が始まりました。大学時代は馬術部の朝練の



ため、5時過ぎの東海道線に乗るという毎日。今から思えば考えられないような生活でしたが、おかげさまで体力だけは自信が付き、今も新宿の職場までこれまた遠距離通勤しております。

現在、病院の小児科で臨床心理士として働いています。就職数年目の頃、なぜこの仕事を選んでしまったのかと自問自答しながら苦しむ時期がありましたが、現在は天命と思うようになり、良きにつけ悪しきにつけ一生この仕事を続けていくのだろうと実感しております。

そんな私の目下の楽しみは、山登りです。数年前に職場の同僚に連れて行ってもらったのがきっかけで、すっかりその魅力にはまっています。山道を歩き、ふと足を止めたときの景色の素晴らしさ。澄んだ空気を吸い込むと、生きる活力がわいてきます。美しい山並みは、疲弊している私の心に何よりももの安らぎとパワーをくれるのです。この冬はどんな山たちに会えるかな・・皆様もぜひ！

[22年度前期事業報告]

～地引綱大会～

酷暑の始まりとはいえ、今年も好天に恵まれた7月31日(土)にご家族、お子様を含め67名のご参加を頂きました。子供達の宝探しのイベントのあと、全員で綱を引き、鱈やしらすの豊漁に歓声をあげ、天ぷら、生しらす、釜揚げしらす、に舌鼓を打ち、夏休み冒頭の楽しい一日を過ごしました。

来年も大勢の皆様のご参加をお待ちしております。



～第14回SUC交流・懇親会～

9月14日(土)、グランドホテル湘南にて、第14回SUC(湘南藤沢地区大学同窓会)交流・親睦会が開催されました。今年は東海大同窓会が幹事校として主催いたしました。

17大学より149人の方々が参加され、また来賓として藤沢、茅ヶ崎、鎌倉の市長もご出席になり、地元藤沢の「オリラニ・フラ・スタジオ」のフラダンス、湘南盆踊りのアラクションを楽しみながら、親睦を深めることが出来ました。

～22・秋「ウォーキングの会」～

10月26日(火)快晴に恵まれ、総勢11名にて、「横須賀三笠公園と猿島散策」を実施しました。皆さん～7,5km/13,000歩強～と頑張りました。

23・春の開催は5月中旬を予定しています。

参加(入会)希望者は事務局迄ご一報下さい。



～第5回湘南桜友会ゴルフ大会～

当会では年1回、秋空のもと、湘南のゴルフコースで親睦ゴルフ大会を開催しております。本年も11月15日(月)小田急藤沢ゴルフクラブにて鎌倉桜友会の方々も参加合計11名にて行われ当会のゴルフ幹事清郷伸人氏が優勝しました。



～秋のバス旅行～

当会初めての企画である「秋のバス旅行」は快晴に恵まれ総勢27名にて、11月19日(金)に学習院と関係が深い、元沼津御用邸と秩父の宮記念公園、と修善寺もみじ林を訪れました。皆さん和気藹々とすばらしい富士山を楽しみ、御用邸では学生時代を懐かしみました。来年も企画いたします。



〔23年事業計画・サークル活動予定〕

- * 2月初旬～中旬 鎌倉・東慶寺座禅と観梅
(学習院昭和寮との共催)
- * 5月21日(土) 第7回総会、懇親会
- * 5月中旬 ウォーキングの会
- * 6月下旬 会報発行(第13号)
- * 7月下旬 地引網大会
(辻堂海岸「五ろ引網」)
- * 9月18日(土) SUC交流・懇親会
- * 10月下旬 秋季・ウォーキングの会
- * 11月上旬 湘南を巡るゴルフ大会
- * 11月中旬 日帰りバス旅行
- * 12月初旬 会報発行(第14号)
- * 12月11日(日) クリスマス・年忘れ懇親会
(グランドホテル湘南)

編集後記

前号より会報編集を担当させていただいております佐藤です。先代内海さんが残して下さった枠組を基に、竹内会長、浦田事務局長の多大なお助けを仰ぎながら、無事12号の発刊に漕ぎ着けました。

会長始め会員の皆様に改めて深く感謝を申し上げますと共に、紙面へのご意見等賜れましたら幸いです。今後とも宜しくお願ひ申し上げます。
(佐藤 清崇)